



園だより

文京区立第一幼稚園
令和5年度5月号

URL <http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/dai1-kg/>

元気に泳ぐこいのぼりのように

園長 田村 秀子

木々の新緑がまぶしい季節となりました。126年前に植えられた幼稚園の藤も、例年より早く花を咲かせ、青々とした木陰をつくっています。今年はサクランボが赤く色付き、鳥に食べられる前に、年中・年長組の子供たちが一つずつ持ち帰ることができました。

園庭では、小さな図鑑と、ペットボトルで作った透明のバッグを持ち、園庭に探検に出かける年長児が増えています。草花や木の実、ダンゴムシやミミズを見つけてそっとつまんでバッグに入れ、先生や友達に見せるのが楽しいようです。見付けたことを帰りの会で学級の皆に話したり、見付けたものを「みてみてコーナー」に飾ったりすることで、園庭探検の楽しさが広がっています。



年中組もお弁当が始まり、降園時間がのびて、たくさん遊べるようになりました。保育室、園庭、時には屋上で元気に遊んでいます。こいのぼりを屋上に見に行った時は、こいのぼりに触ろうとジャンプしたり、風になびく姿を追いかけたりして、とても楽しそうでした。先生や友達と「むっくりくまさん」の鬼遊びをした時は、くまのお面をかぶった先生から逃げたり、つかまりたくて前に出てきたりして楽しそうでした。

年少組も、保育室でひと遊びしてから園庭に出て、砂場で砂を触って遊んだり、ジャングルジムに登ったりして嬉しそうです。シャベルで掘ったり、砂場用の新幹線を動かしたり、砂をたこやき型に入れたりなど、思い思いにやりたいことをしています。もうすぐお弁当前の練習として「おやつ」も始まります。遊びから片付けに気持ちを切り替え、手をきれいに洗い、皆がそろってから「いただきます」をする生活の仕方を学んでいきます。

そしてどの学年も、こいのぼり作りに取り組みました。それぞれの発達に応じて、楽しく取り組める材料や場を用意すると、すぐに作り始めた子が多かったようです。小さな手でシールをたくさん貼った年少組。クレパスで模様を描いたり、ウロコの形の折り紙をのりで貼ったりした年中組、グループの友達と形や色を選び、つや紙の裏に型どりをしてハサミで切り抜き、うろこを工夫して並べ、カラフルなこいのぼりを作った年長組。風が吹いてもウロコがとれないように、力を合わせて一生懸命に作ったこいのぼりが、爽やかな風になびいています。こいのぼりを持って園庭や屋上を走る年少組、年中組の子供たちは、笑顔がキラキラしています。



子供たちは新しい環境の中でたくさんの刺激を受け、興味・関心を広げています。そして周りをよく見て、「面白そうだな」「やってみたい!」と感じた時、自分から環境に関わり、夢中で遊びます。いつスイッチが入るかは子供によって様々ですが、夢中になって遊ぶ中で、いいやり方に気付いたり、考えたり、工夫したりしていきます。そして試行錯誤する力や技能、集中力、体力、想像力などが育っていきます。子供たちの行く手には、思い通りにならないことや厳しいこともたくさんある世の中ですが、空を泳ぐこいのぼりのように、どの子もたくましく、しなやかに、大きく育ってほしいと思います。園、家庭、地域で共に子供たちの成長を見守り、支えていきましょう。